

令和2年10月22日

【 GIGAスクール構想 】

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。

学校における1人1台端末の 活用方針

上田市教育委員会
学校教育課

【理念】 1人1台環境がもたらすもの

だれひとり 取り残さない

1人1台環境には次のメリットがある。これらを最大限活かすことで、子どもたちだれひとり取り残すことのない教育を目指す。

- ① 双方向性 : 積極的に発言できない子どもの意見に触れる
- ② 個別最適化 : 子どもの習熟度に合わせた学習の提供
- ③ 越境性 : 不登校や保健室登校の子どもの授業参加
- ④ コラボレーション : 子ども同士がリアルタイムで共同編集
- ⑤ クリエイティブ : 表現の多様化による個性の発現
- ⑥ 効率化 : 教員の働き方改革・ペーパーレス

次頁以降
詳細説明



文房具のひとつ として



近年の全国学力・学習状況調査では、多くの情報の中から必要な情報を選択して解決する力が求められている。1人1台の端末をもつことで検索する機会が増え、またそれがいつでもできるようになることで、情報の取捨選択の力がつく。

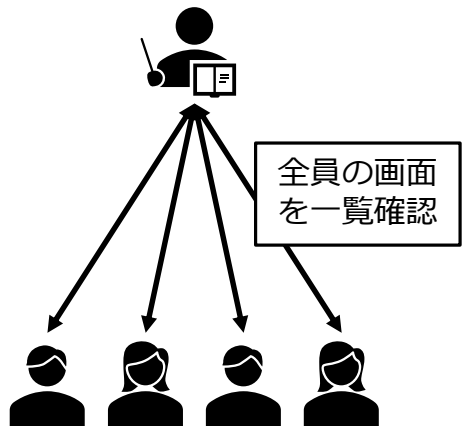
活用方針① ～双方向性～

一人一人の考えを共有し、多様な意見に触れる

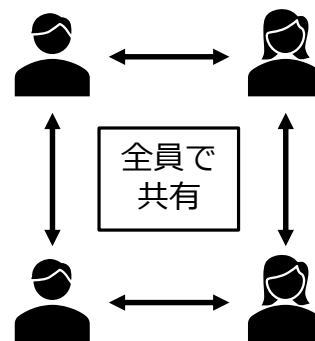
現状 手を挙げて積極的に発言する子どもの意見だけが取り上げられることが多い。

今後 文章なら「発言」できる子どもがいる。PC上で意見を書いてみんなで共有。

先生 ⇄ 子どもの双方向性



子ども ⇄ 子どもの双方向性



先生用制御・
授業支援ソフト

G Suite

で実現

活用方針② ～個別最適化～

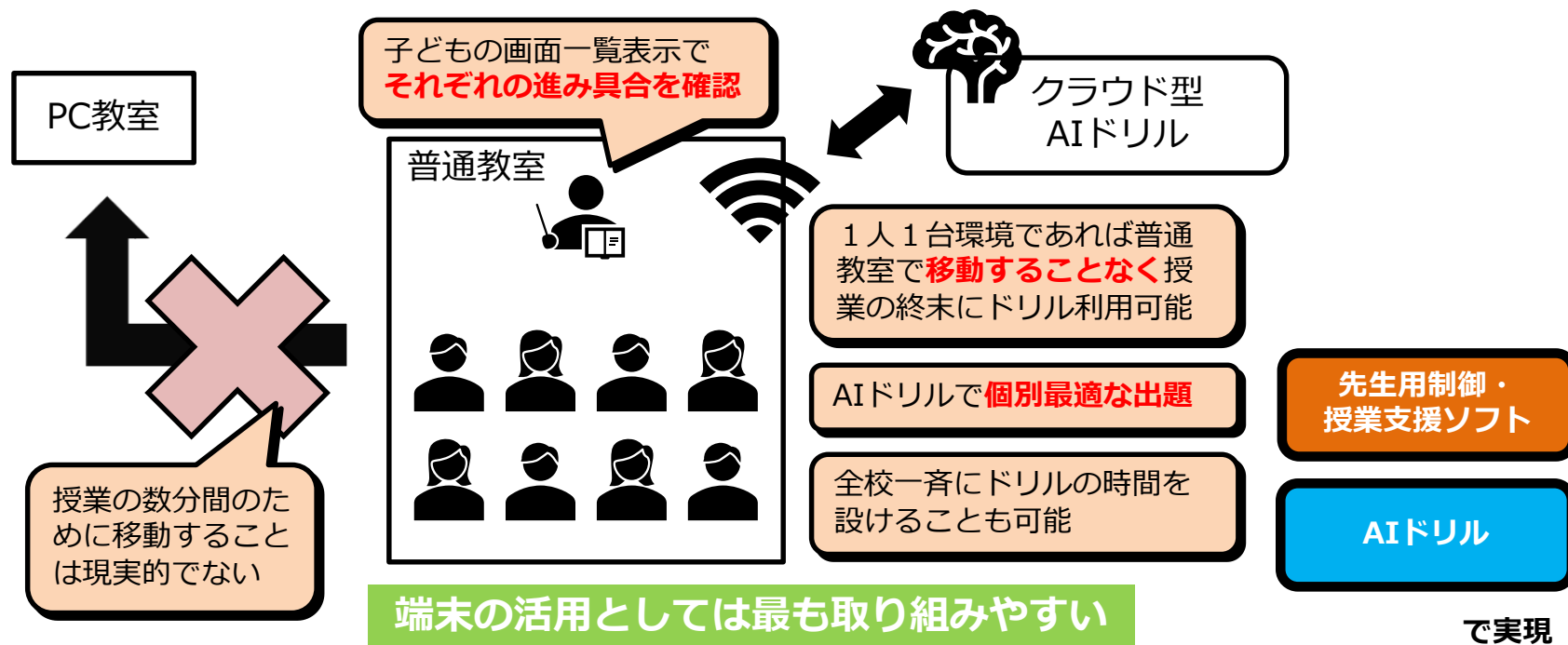
子どもの習熟度に合わせた学習の提供

現状

PC教室にドリルソフトが入っているが、たとえば、授業の終末に振り返りのためPC教室に行ってドリルをやるというようなことは現実的でない。

今後

普通教室で授業の最初や最後の数分にドリルを行うことができる。また、AIドリルは子どもの習熟度によって出題が自動的に変わる。



活用方針③ ～越境性～

遠隔授業、不登校や保健室登校の子どもの授業参加

現状 遠隔地との授業交流や不登校等の子どもの授業参加が難しい

今後 リモートでの授業参加や、クラウド上での課題提出が可能。

不登校の子どもも参加しやすい

G Suite

で実現

そのほか、越境性として次のことも挙げられる。



小規模校同士や気
候風土の異なる県
外学校との
交流学习



ネット情報にアクセ
スしやすくなること
で、教科書や資料集
にはない情報にアク
セスでき、学習範囲
が広がる



検討
課題

家庭への
持ち帰り

活用方針④ ～コラボレーション～

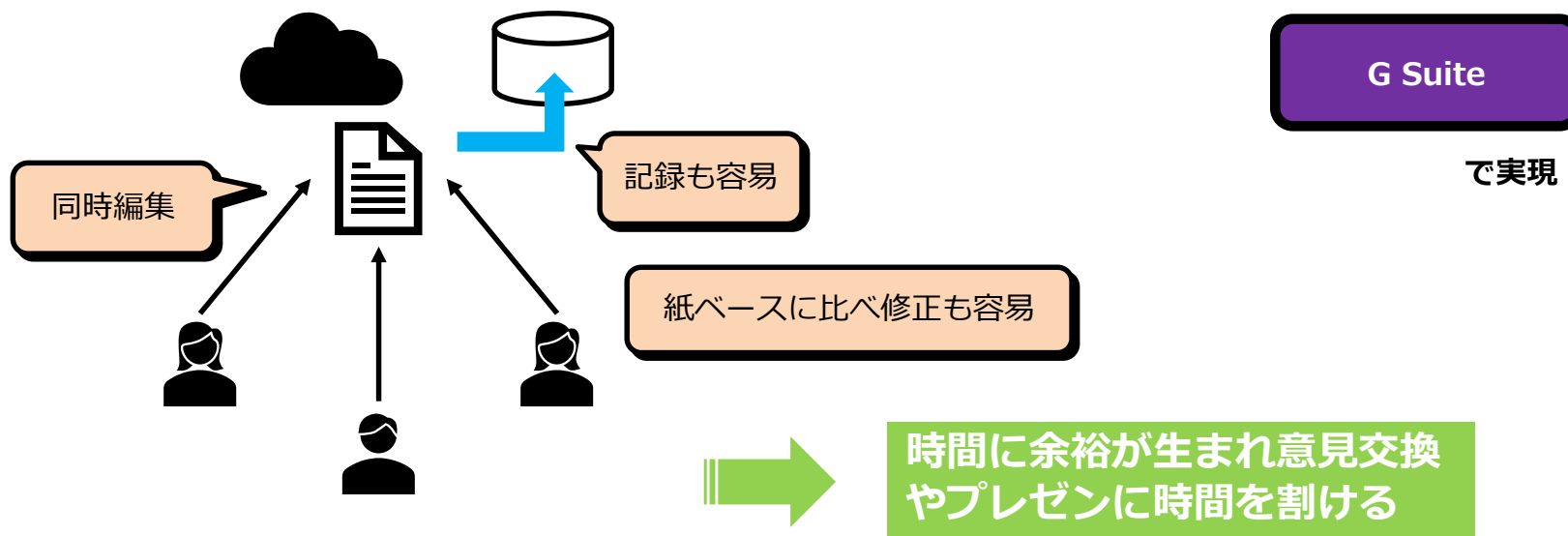
子ども同士がリアルタイムで共同編集

現状

模造紙や付箋を用いて班ごとのプレゼン、レポート、新聞作成などを行っている。誰かが書いている間の待ち時間が生じる。また、記録に残しづらい。

今後

クラウド上のファイル子どもたちが同時編集でき、全員が参加できる。内容の修正や記録に残すことも容易。



活用方針⑤ ～クリエイティブ～

表現の多様化による個性の発現

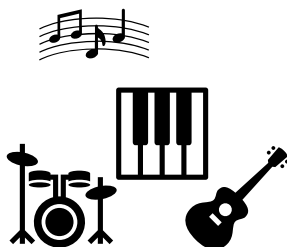
現状 子どもたちの表現方法が紙ベースに限られることが多い。

今後 写真・動画編集、音楽制作、プレゼンテーション、プログラミングなど子どもたちの表現が多様化。インプットからアウトプットへ。

写真・動画編集



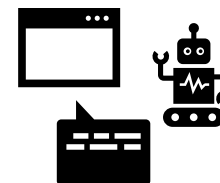
音楽制作



プレゼンテーション



プログラミング



そのほか、端末のカメラを使って。

- 跳び箱 跳べる人と跳べない人の違いを確認
- ダンス 動きの確認
- 音楽 口の開きを確認



まずは**スモールスタート**。
ソフトについては今後検討。

活用方針⑥ ～効率化～

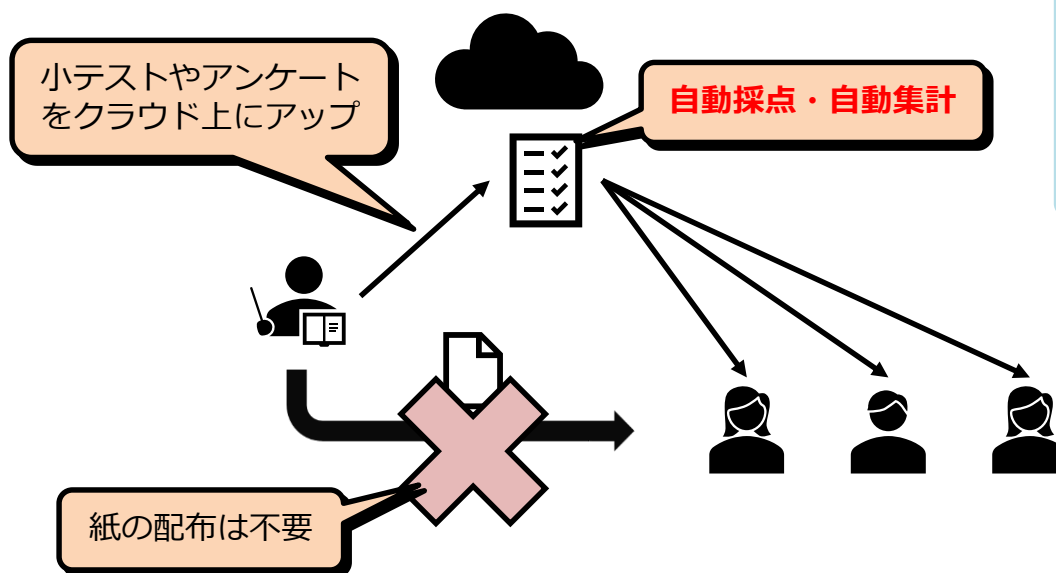
教員の働き方改革・ペーパーレス

現状

小テストの採点、アンケートの集計など紙ベースのため時間がかかる。
プリントの印刷も非常に多い。

今後

自動採点や自動集計できるフォームを利用し業務効率化。
課題等もクラウド上で配布しペーパーレス。



- 表からグラフを作成し、データの特徴をつかむ
- プリントを何枚も用意する必要がない。
- 何度もやり直せるため、繰り返し試行錯誤できる

G Suite

で実現

まとめ

- これまでは子どもにとって、PC教室の授業は特別な時間だったが、今後は端末を日常的に使用することで、特別なものではなく、あって当然な便利なもの、**文房具のひとつ**のように使われることを目指していく。
- 教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげる**ことが重要。

これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、**教師・児童生徒の力を最大限に引き出す**。

教員が活用方針に沿って使いこなすために…

- **ICT支援員を増員し現場に普及させる。**
- **職員研修会の実施**
- **各校の情報教育担当教諭で構成される情報教育主任会の部会等で教員自らが研究を進める体制をつくる。**